



個人投資家向け説明会

株式会社FRONTEO 証券コード 2158

2026年8月

なぜ、AIは創薬への挑戦で敗れたのか？

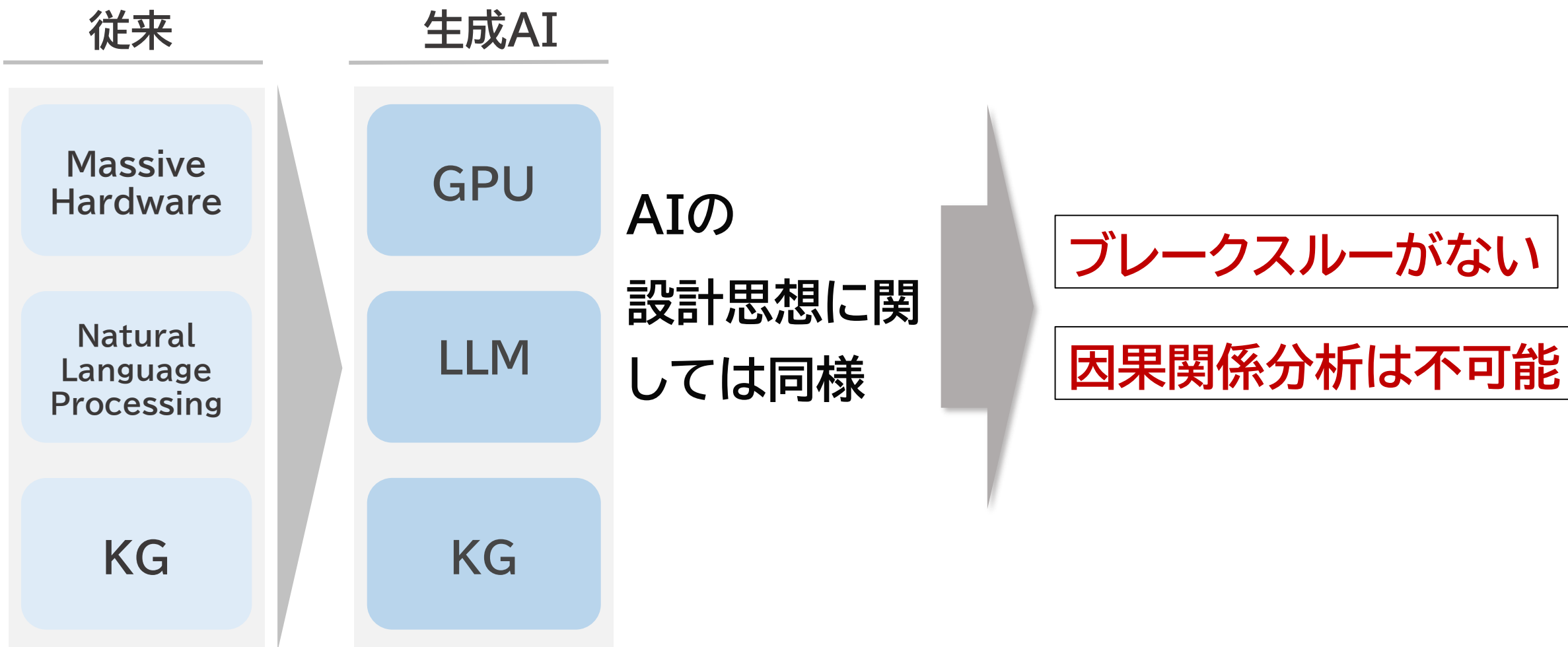


大差でクイズチャンピオンに勝ち、チェスでは「神のような手を指してきた」と言わしめた。



Well, no, apparently they don't use it much, because **no one seems** to have felt that they were increasing the likelihood of any scientific **breakthroughs.**

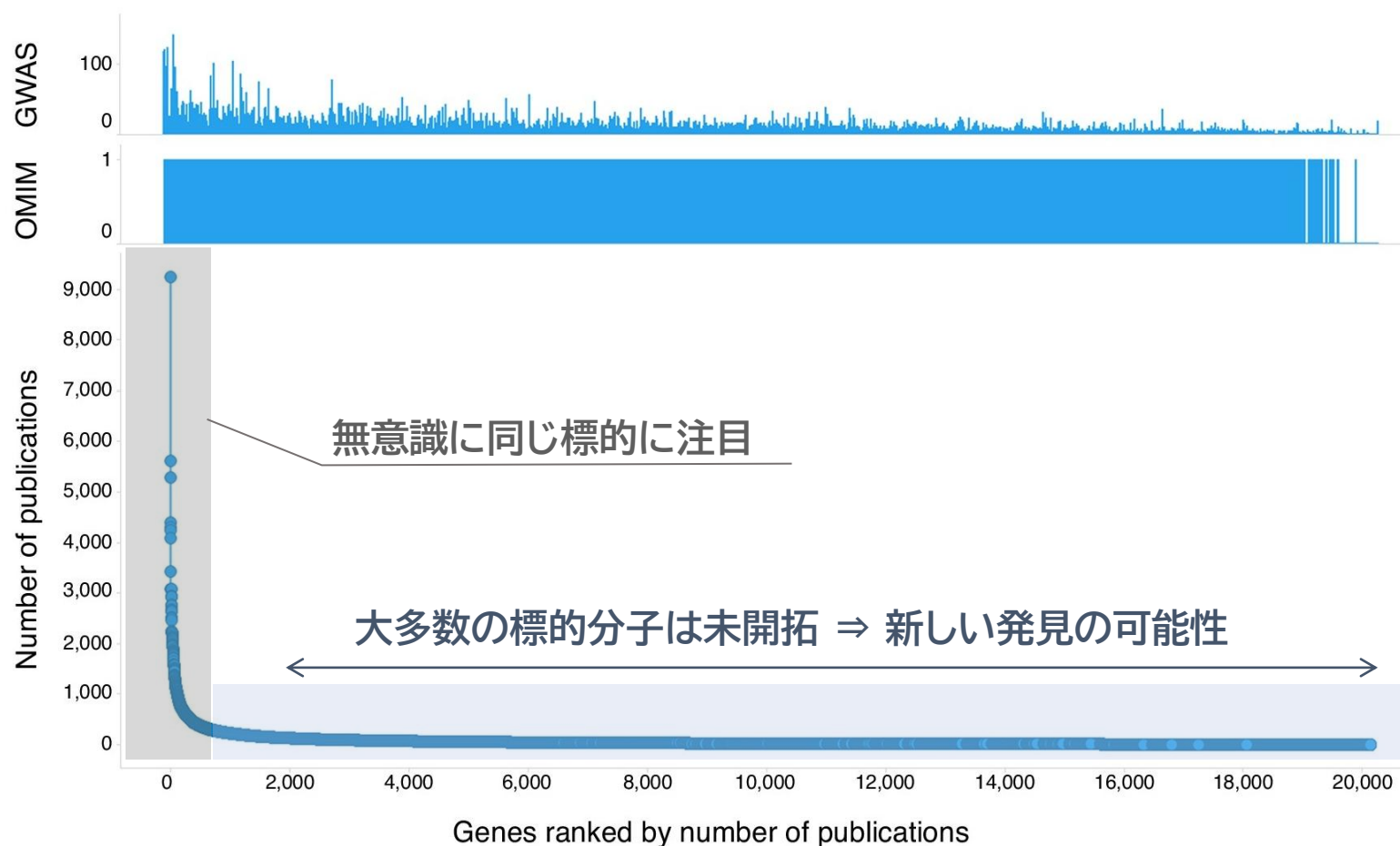
これらの根本的な違いはなにか？



新しい発見を妨げる確証バイアス

「確証バイアス」から研究者は無意識に過去の知見に合致する遺伝子を研究対象として選択

First in Classの創薬には既知の論文から未知の関連性を推測するアルゴリズムが必要



電波望遠鏡 vs 電子顕微鏡



CONTENTS

会社概要と方程式駆動型AI「KIBIT」	7
創薬における課題	16
FRONTEOのAI創薬支援方式	20
バイオベンチャー支援事業	28
米国展開・ブランディング	31
AI創薬支援事業 収益モデル	35
2027年3月期第1四半期 決算サマリー	42

会社概要と方程式駆動型AI「KIBIT」

会社名: 株式会社FRONTEO

上場証券取引所: 東京証券取引所グロース市場(証券コード:2158)

代表取締役社長: 守本 正宏

設立年月日: 2003年8月8日

資本金: 915,057千円(2026年6月30日時点)

従業員数(連結): 272人(2026年3月31日時点)

事業内容: 自社開発の方程式駆動型AI「KIBIT」の提供を通じた、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断支援
(ライフサイエンスAI事業 / リスクマネジメント事業<ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野/ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野/
リーガルテックAI分野/経済安全保障分野>/DX事業<株式会社アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野>)

主要取引先: 民間企業(化学・機械・教育・金融・建設・小売・自動車・商社・情報通信・食品・製薬・電子部品・電力・保険など)
官公庁(法執行機関・各種監視委員会)、国内外法律事務所、医療機関

Global Offices



1st version(2012)

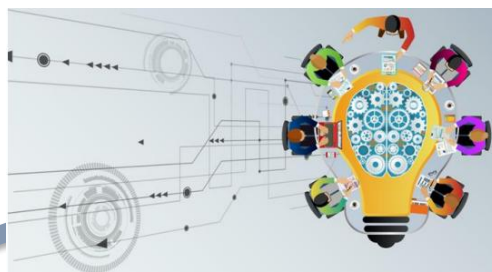
Kibi+

2003~



デジタルフォレンジック
電子ディスカバリ

2014~



ビジネスインテリジェンス

2nd version(2018)

Kibi+

2015~



AI創薬
AI診断支援機器

2020~



経済安全保障

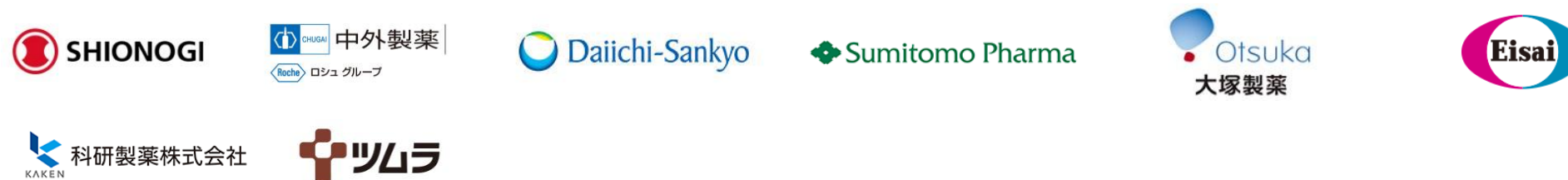
金融機関



製造業



製薬企業



サービス業



大学・研究機関



※ 2026年4月30日時点 一部掲載、順不同

社会課題

病気 訴訟 不正 コンプライアンス 経済安全保障 技能伝承 DX

解決の努力

専門家

創薬研究者

医師

弁護士

犯罪捜査官

企業法務・
コンプライアンス

経済安全保障
分析官

熟練技能士



非連続的(新しい)発見

因果関係分析

判断支援

NLP AI (特許取得済み)



Kibi+



FRONTEO

豊富な社会実装経験

マップ化する技術 (特許取得済み)



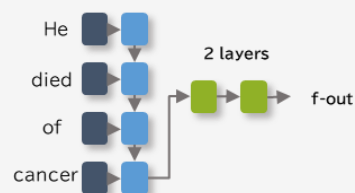
純国産AI「KIBIT」

数学的アプローチで開発された方程式で駆動する、軽くて高性能なAI

Kibi+

方程式で駆動

$$L = a\{F(\theta_2) - F(\theta_1)\}$$

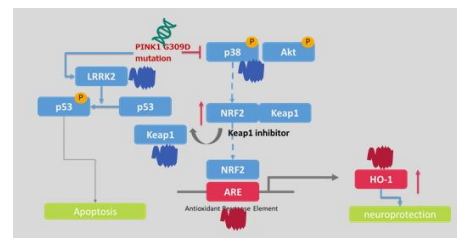


* 方程式はイメージです

非連続的(新しい)発見



因果関係分析



CO2排出量極小

CO₂排出量の比較(単位: lbs)



CPU1台



※1 Energy and Policy Considerations for Deep Learning in NLP, College of Information and Computer Sciences University of Massachusetts Amherst (Jun 2019) から抜粋

※2 日本のCO2排出量および日本の人口からFRONTEO作成 ※3 ※1の論文と同様の計算方法により、FRONTEO作成

	Patent No.:6346367 Registration Date: June 1, 2018
	Patent No.:11544309 Filing date: April 27, 2020
	Patent No.:3709183 Filing Date:October 29, 2018

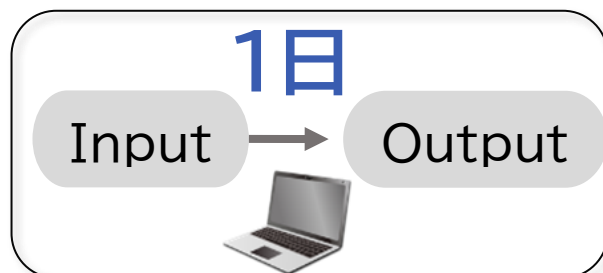
	FRONTEO	Google	Stanford	Meta
特徴	- 日米欧で特許(2018～) <u>意味を保持</u>したまま <u>文書&単語</u>を同時に ベクトル化 <u>方程式駆動型</u>	- Word2Vec (2013) - 単語のみ (<u>Sub word</u>) <u>最適化</u>	- GloVe (2014) - 単語のみ (<u>Sub word</u>) <u>最適化</u>	- FastText (2016) - 未知の単語への対応 - 単語のみ (<u>Sub word</u>) <u>最適化</u>
正確性	◎	○	○	○
計算コスト	◎	▲	▲	▲

比較：疾患と遺伝子の未知の関係を予測する

BERT
(Google)



Kibi+

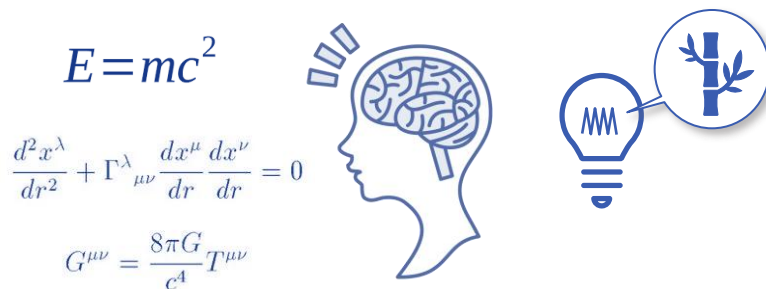


PC1台分の電力

Metrics	Kibi+	BioBERT v1.1
	pubmed	pubmed
precision	81.19	77.32
Recall.	87.63	82.68
F1	84.53	79.83

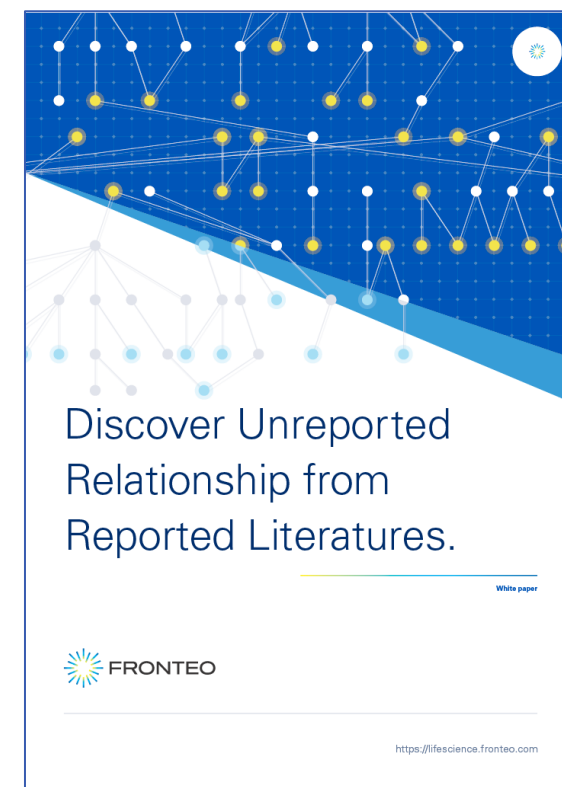
SPRINGER NATURE × Kibi+

「KIBIT」は世界で唯一、
Natureの論文にアクセス・分析を許されているAI



URL:
https://lifescience.fronteo.com/document/s-contact?doc=dl_lsai_snwhitepaper

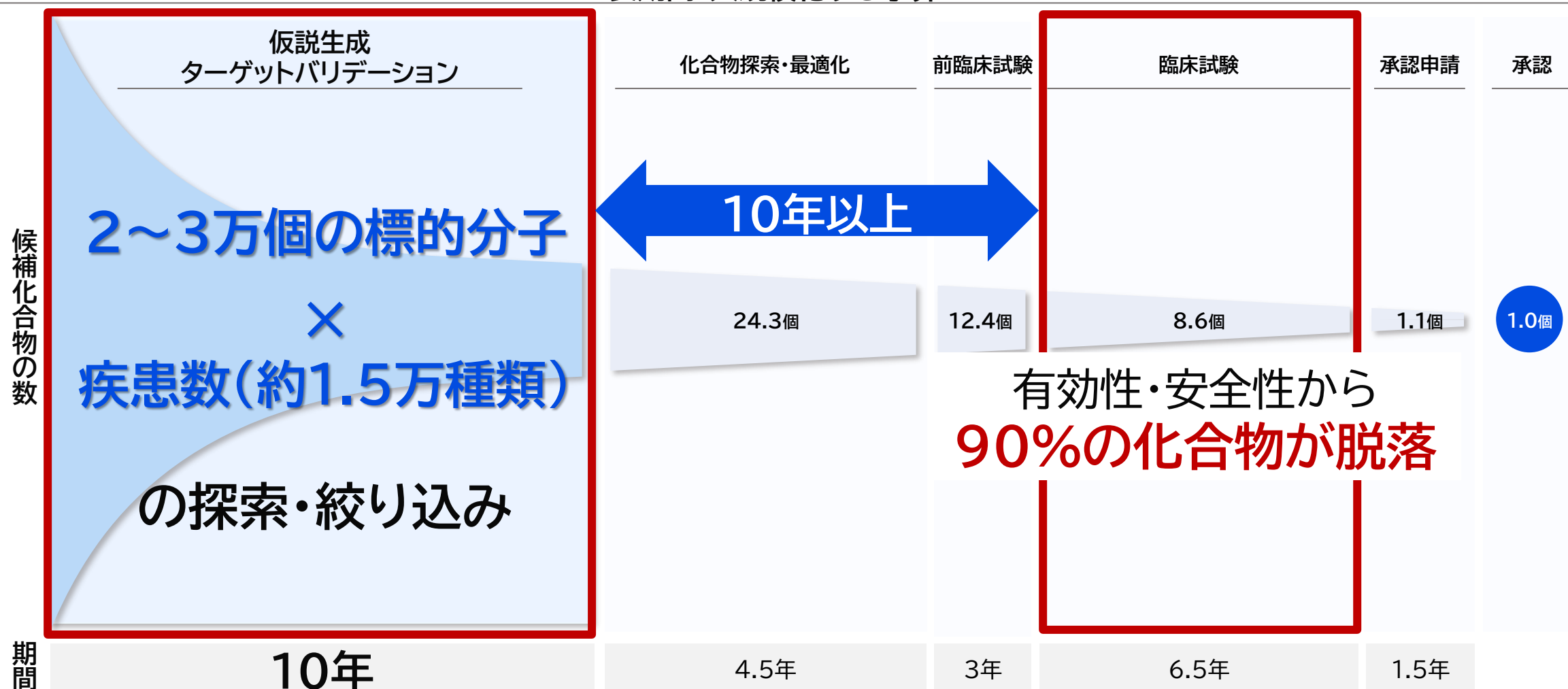
ホワイトペーパー



創薬における課題

創薬における極めて低い成功確率

長期間・大規模化する予算



成功確率改善には**Biology(生物学的)解明**が必要

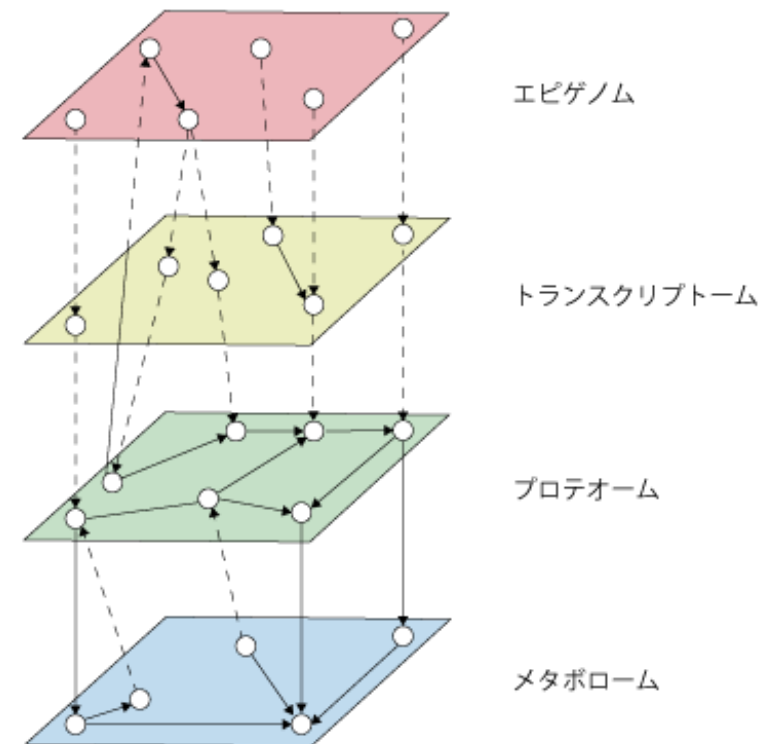
Real World Data(RWD)



スーパーコンピューター&AI



多層オミックス

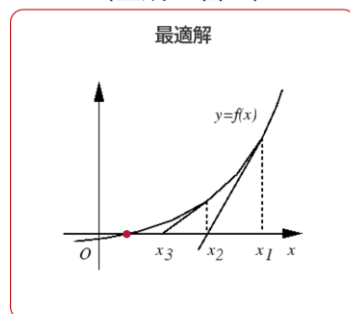


相関関係では因果関係を
正しく見つける事は不可能

スーパーコンピューター&AI



データ駆動型AI
(生成AI含む)



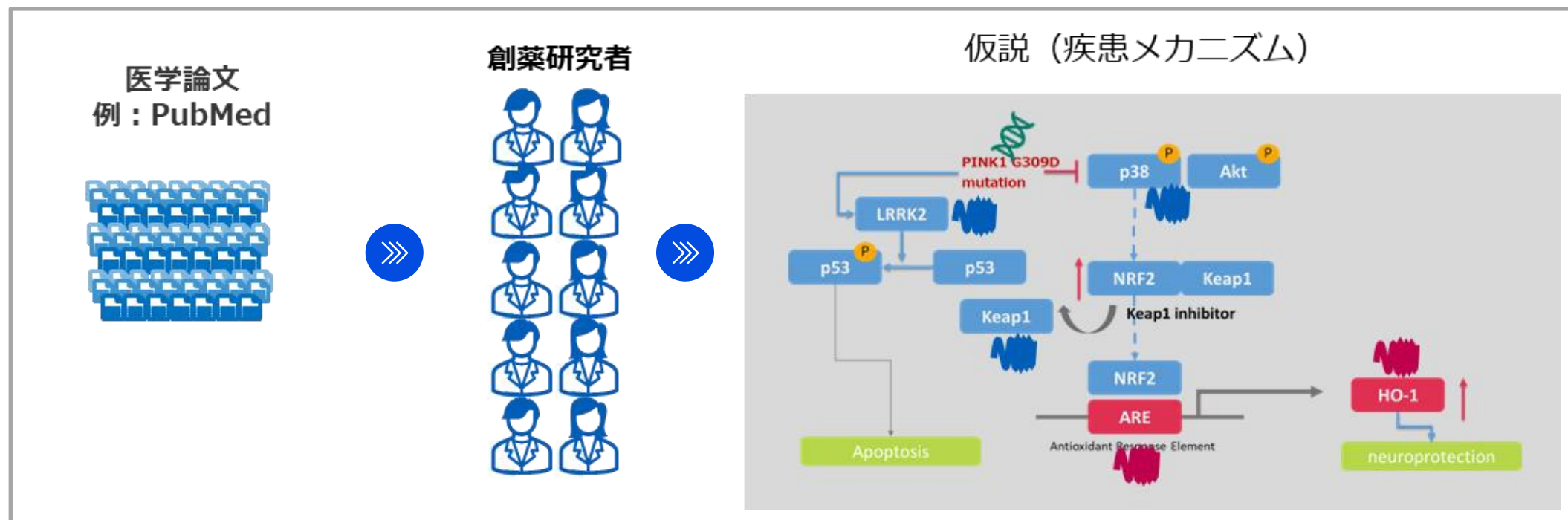
ウェットラボ&ロボティックス



因果関係が不明 = 生物学的理解ができない

FRONTEO の AI創薬支援方式 (方程式駆動型AI KIBITの活用)

論文が最も統合されているデータベース



優れた論文解析技術こそ最良の手段



FRONTEO AI Kibi+

バイオシミュレーションが可能なバイオロジー・デジタルツインを実装



世界初・国産の
仮説生成特化型システム

標的探索 ・適応症探索 ・安全性
・バイオマーカー探索
・患者セグメンテーション
・フィジビリティ

日米欧特許技術

* 方程式はイメージです

トヨシバ方程式

$$L = a \{ F(\theta 2) - F(\theta 1) \}$$

$$F(x) =$$



東京品川FRONTEO本社内

「KIBIT」は論文情報から
バイオロジーに沿った関係の抽出

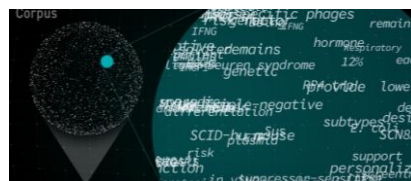


バイオシミュレーション機能を
活用した検証手法

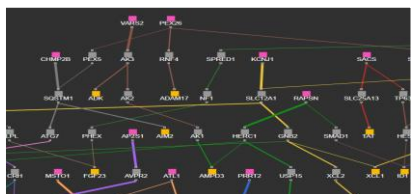
医学論文



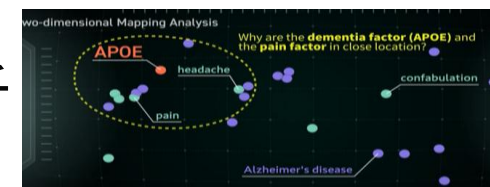
数百次元の
コーパス



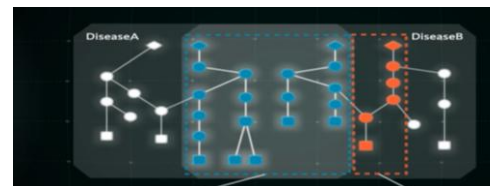
因果関係
マップ



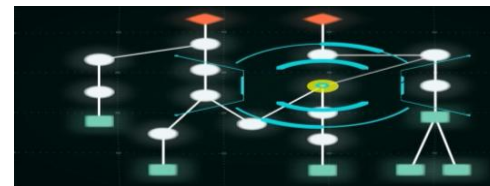
2次元マップ解析



重複差分分析



仮想ノックアウト
実験



全て「KIBIT」で完結



DDAIFが支援する創薬プロセス

ターゲット選定



化合物探索
最適化



前臨床試験



臨床試験



承認



眼科疾患の
新規標的探索



女性疾患の
創薬シーズ探索



Meiji Seika ファルマ

既存薬・開発化合物の新たな適応症探索

既存の創薬資源を新たな治療領域に活用し、開発期間の短縮、費用削減

エヌビー健康研究所

独自の抗体医薬技術とDDAIFを組み合わせ、
創薬の上流工程を高効率化・高速化
その後、製薬企業へ導出



ターゲット選定



化合物探索/最適化



前臨床試験



製薬企業へ導出

臨床試験以降を
製薬企業が実施



丸石製薬

包括的共創モデル

研究開発戦略全般に関する意思決定支援 創薬プロセスの全工程を、研究開発戦略の立案から全体的にサポート

ターゲット選定

化合物探索・最適化

前臨床試験

臨床試験

承認

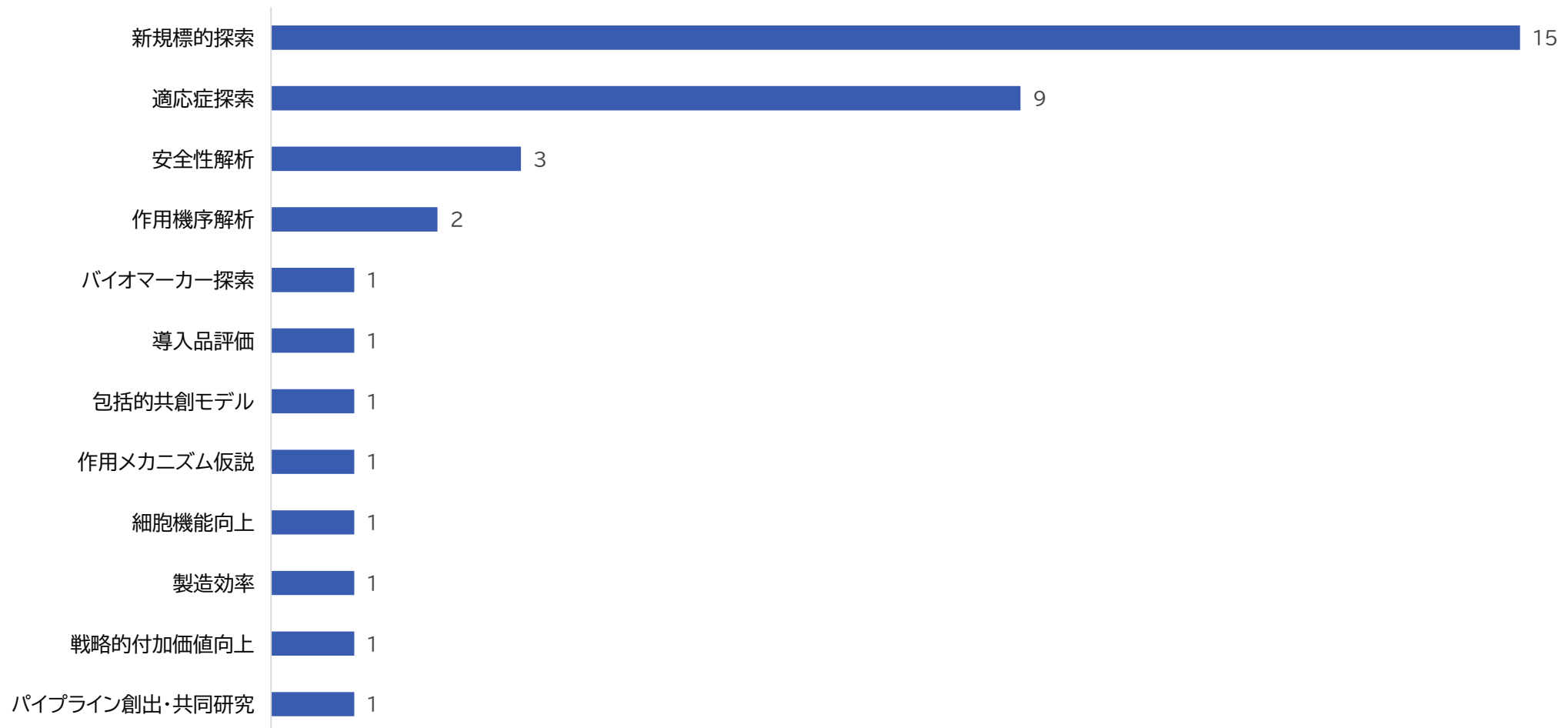
Drug Discovery AI Factoryプロジェクト獲得状況

- | 2023年7月のDDAIF開始以来、特許に裏付けられた技術がPOCでその実績を認められ、製薬企業等との共創プロジェクトへ発展
- | FY25より、国内バイオベンチャーとの共同創薬エコシステム事業「DDAIF Innovation Bridge」や特定の疾患や研究テーマに限定しない、研究開発戦略全般に対する意思決定を支援する「包括的共創モデル」を提供開始
- | 2026年5月、「KIBIT AI Biology Lab」開設
- | 米国での展開を本格的にスタート

共創プロジェクト※ 8件			共創プロジェクト※ 22件			共創プロジェクト※ 4件		
● 丸石製薬 適応症探索PJ開始 ● 第一三共 毒性解析 ● UBE 適応症探索 ● 武田薬品工業 安全性解析 ● 丸石製薬 バイオマーカー探索 ● エーザイ 標的探索 ● EAファーマ 標的探索 など			● 中外製薬 新規標的探索 ● 富士製薬工業 導入品評価 ● マルホ 新規標的探索 ● 日華化学 新規標的探索 ● 第一三共 安全性解析 など			● 参天製薬 新規標的探索 など		
協業			協業			協業		
● Axcelead DDP 創薬事業協業 ● Springer Natureと創薬事業協業開始 ● 欧米企業へ創薬事業提案開始 ● 東京科学大学 村田昌之特任教授 創薬事業アドバイザー就任			● テクノプロ・R&D 創薬事業協業開始 ● 米国進出へコンサルティング契約締結 ● 熊本大学 共同研究開始 ● 東京科学大学 共同研究開始 ● オクラホマ大学 共同研究開始			● ジーンネット 抗老化成分探索 ● 東京科学大学「FRONTEO AI創薬エコシステム協働研究拠点」開設 ● 大学・研究機関に研究支援プログラム開催 ● シミック 適応症戦略支援で協業		
事業アップデート			事業アップデート			事業アップデート		
● Drug Discovery AI Factory 事業開始 ● 疾患ゲノム解析創薬標的探索独自の解析手法開発 ● Novel Targets Library 事業開始 ● Novel Targets Library 第2段公開			● 「FRONTEO共創型創薬エコシステム」開始			● 「KIBIT AI Biology Lab」開設		
特許			包括的共創モデル			事業アップデート		
● 取得論文等からの2次元マップ生成技術(米国) ● 既知情報から未知を発見する技術 ● 疾患に関する遺伝子ネットワーク上のパスウェイを推定する技術			● エヌビー健康研究所 ● セルアクシア ● タグシクス・バイオ ● C4U ● 糖鎖工学研究所			● 丸石製薬		
FY23/FY24			FY25			FY26		

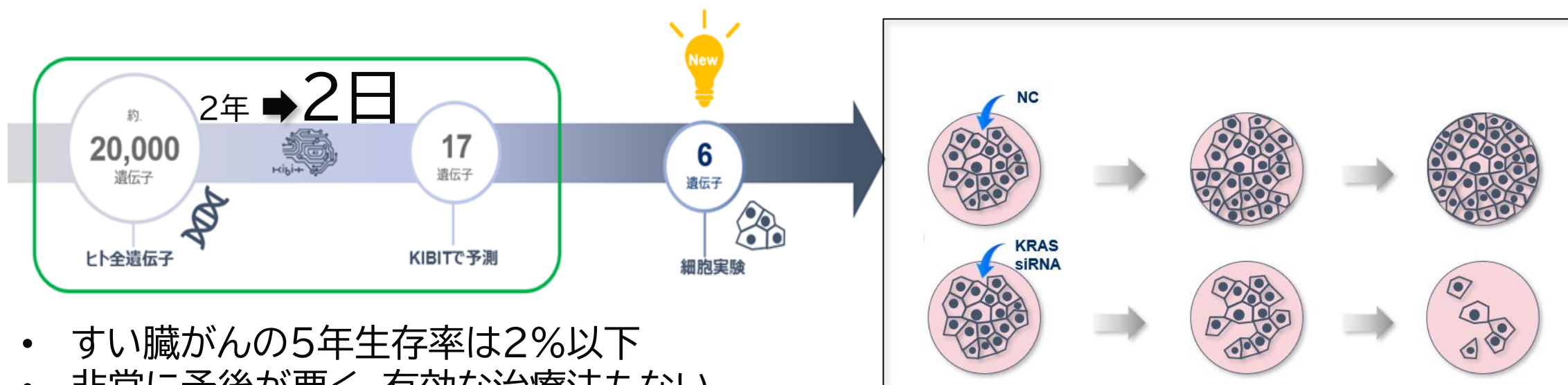
※ 公開可能PJのみ記載

- | 新規標的探索や適応症探索をはじめ、様々なソリューションを提供
- | 新規標的探索が一番多く、製薬企業の新たな標的分子が発見できる可能性への期待が高い



※ DDAIF Innovation Bridgeでは、複数のソリューションを提供しているため、パートナー数とは一致しない

- ◆複数の新規標的分子を発見
- ◆細胞実験でがん細胞株の増殖抑制を確認

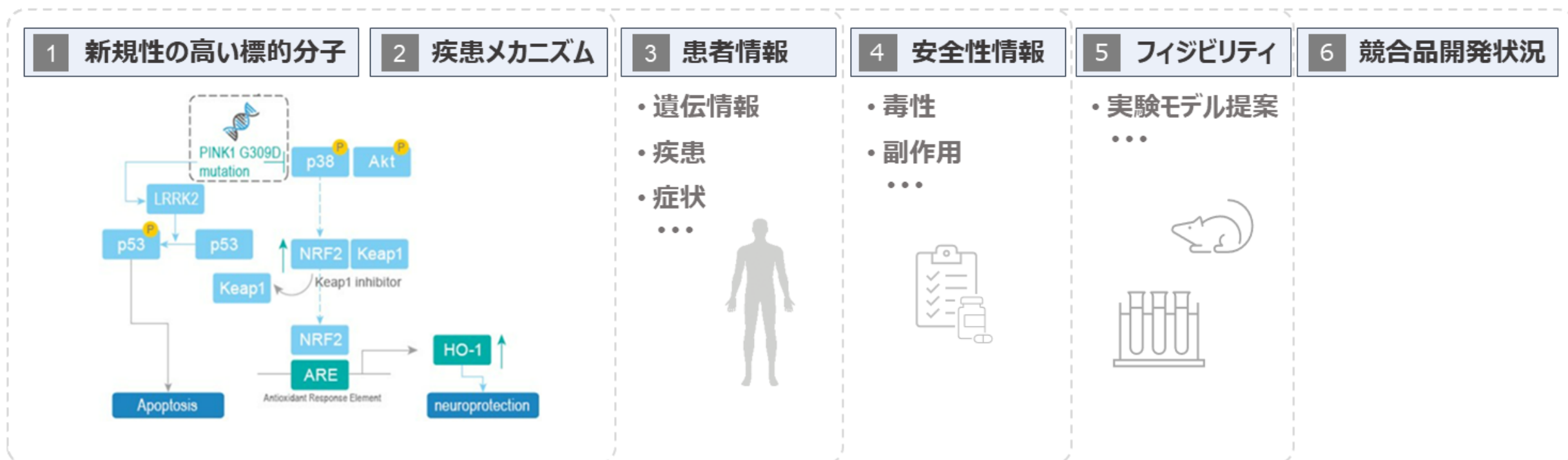


米国オクラホマ大学で追加試験完了し、今後動物実験実施

バイオベンチャー支援事業
DDAIF Innovation Bridge

FRONTEOは医薬品開発の設計図とも言える「仮説」を提供

FRONTEOの考える仮説



DDAIFによる仮説生成技術は評価にも活用可能

サイエンス支援と資金で、導出に向けた“次の一手”につながる道筋をつくる



1st フェーズ
評価・選定



サイエンス支援

資金援助・投資



2nd フェーズ



創薬スタートアップ群

仮説に基づいた再検証を実行

- 機序仮説の強化
- 検証ポイントの明確化
- 成功確率が高まる
導出に向けた価値付与

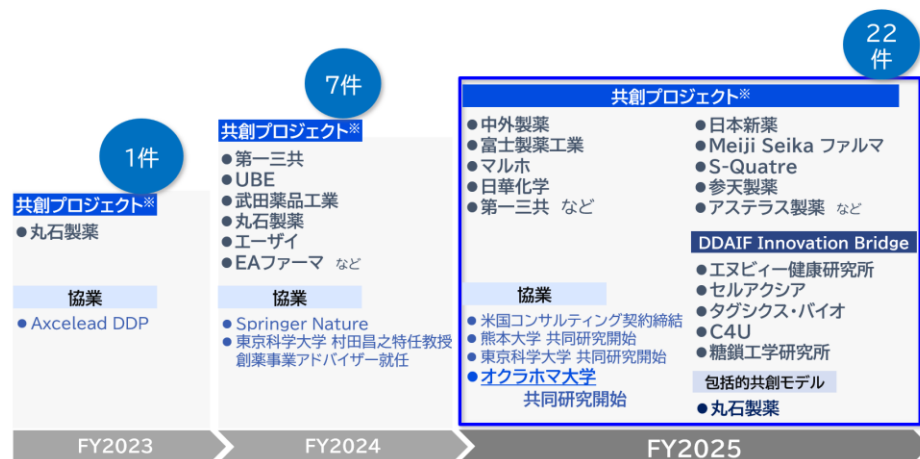
1stフェーズを通じ
蓄積される知見を活かし
新たな創薬アプローチの
共創・共同導出へ

米国展開・ブランディング

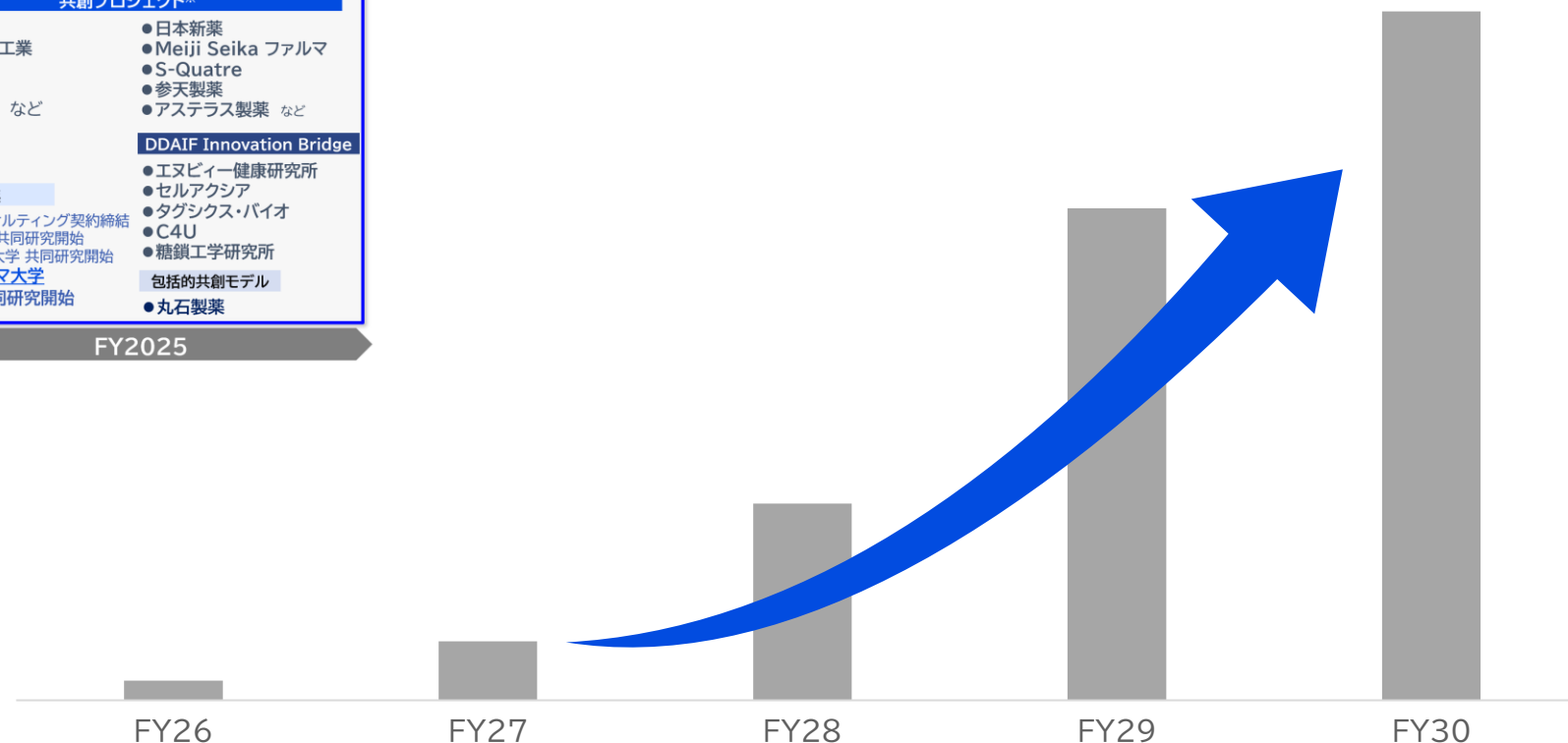
米国展開についてのイメージ図

Ⅰ FY26は米国進出を本格化。日本における製薬企業やベンチャー企業、アカデミアなどと共創プロジェクトや協業が着実に拡大していった流れと同様に、米国においても様々なパートナーとの協業を着実に拡大すべく活動中

日本でのAI創薬事業拡大



米国でのAI創薬の事業拡大イメージ



グローバル製薬企業の経営経験と米国バイオクラスターとのネットワークを生かし、AI創薬分野の米国展開と国内事業の拡大を支援

株式会社FRONTEO(本社:東京都港区、代表取締役社長:守本 正宏、以下「FRONTEO」)は、前バイエル薬品株式会社 代表取締役会長で、EIKI CONSULTING, LLC プレジデントの栄木 憲和(えいき のりかず)氏がライフサイエンスAI事業AI創薬分野の戦略アドバイザーに就任したことをお知らせいたします。



栄木 憲和氏

栄木氏は、2002年から2014年までバイエル薬品の代表取締役社長・取締役会長を務め、グローバル製薬企業の日本法人経営を12年にわたり率いてきました。退任後は米国ニュージャージー州に拠点を移し、世界の創薬の中心である米国のバイオクラスターと日本を繋ぐ活動を続けています。日米の薬事・薬価制度への深い理解に基づき、日本のドラッグロス問題についても経営とグローバルの視点から提言を重ねてきた、日米の医薬品業界に精通する稀有な経営者です。

FRONTEOは、AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」(DDAIF)を通じて、創薬バリューチェーンの最上流に位置する「標的分子探索・仮説生成」を行っています。DDAIFはすでに複数の大手製薬企業に導入されているほか、アカデミアとの共同研究、バイオベンチャーとの共同創薬エコシステム事業へと展開が広がり、2026年5月には自社のAI創薬拠点「KIBIT AI Biology Lab」を開設しました。FRONTEOは、AI創薬分野の日米両市場での社会実装を加速させるため、栄木氏よりアドバイスを受けることで、ライフサイエンスAI事業の拡大と価値の最大化を目指します。

【栄木 憲和 氏コメント】

日本発の新薬が生まれにくくなり、海外で承認された薬が日本の患者さんに届かない。私はこの構造的な課題に、経営者として、また日米を行き来する立場から向き合ってきました。この課題を解く鍵は、創薬の最上流である標的探索の生産性を根本から変えることにあります。FRONTEOは、自社開発のAI「KIBIT」でこの領域に正面から挑み、すでに大手製薬企業での導入や自社での検証実績を積み重ねている、世界でも稀有な企業です。日本の技術で創薬の入口を変え、それを世界で証明する。この挑戦に、私の経験とネットワークを役立てたいと考えています。

【略歴】

1979年、日本チバガイギー株式会社(現ノバルティスファーマ株式会社)入社。
1994年、バイエル薬品株式会社入社。1997年より同社取締役、滋賀工場長に就任。
2002年より2014年まで同社代表取締役社長・取締役会長を務める。その間、日本製薬工業協会理事、日本心臓財団理事、大阪医薬品協会理事、日本PDA理事、ISPE国際メンバーなどを歴任。
2014年、バイエル薬品を退任後、米国ニュージャージー州に移住。ニューヨークコンサルティングABPSグループに所属。現在はEIKI CONSULTING, LLC プレジデントとして、米国バイオクラスターと日本を繋ぐ活動を行う。
2026年7月、株式会社FRONTEO ライフサイエンス事業部アドバイザーに就任。

「医療産業成長戦略セミナー Annual Forum 2026」で講演を実施

ノーベル賞受賞者・産学官トップが集う 「医療産業成長戦略セミナー Annual Forum 2026」で講演を実施

株式会社FRONTEO(本社:東京都港区、代表取締役社長:守本 正宏、以下「FRONTEO」)の代表取締役社長 守本 正宏が、2026年7月15日(水)に国際文化会館(東京都港区)にて開催された「医療産業成長戦略セミナー Annual Forum 2026」で特別講演者として登壇いたしました。また、特別講演後のディスカッションには当社取締役CSO(最高科学責任者)豊柴 博義も登壇しました。



特別講演
【医療産業成長戦略セミナー Annual Forum 2026】

「医療産業成長戦略セミナー」は、元内閣官房副長官 古川 貞二郎氏のご指導の元賛同を得て1993年に発足し、33年・通算396回超の開催実績を持つ、日本の医療産業の産学官のリーダーを対象とした唯一無二の戦略プラットフォームです。中外製薬 名誉会長 永山 治氏がチェアマンを務め、産学官のトップリーダー9名が戦略チームとして運営を牽引。歴代講師には内閣府事務次官、厚生労働審議官、厚生労働大臣経験者をはじめとする政策当局の最高幹部から、日本を代表する企業経営者、世界的研究者まで名を連ねております。

Annual Forum 2026では、製薬・医療機器・医療産業・卸・商社・IT・金融・ベンチャーの社長・経営層、厚生労働省、各省庁幹部、第一線の研究者・臨床医・病院理事長など、産学官500名のトップリーダーが一堂に会する年間最大の戦略会議です。各講演者には、その領域で世界最高水準の実績を持つ演者が厳選されています。今回の特別講演には、ノーベル生理学・医学賞受賞者である大阪大学 特別栄誉教授 坂口 志文氏とともに、AI創薬領域から当社代表取締役社長 守本が講演。基調講演は自治医科大学 学長、東京大学名誉教授、宮内庁皇室医務主管永井 良三氏が務めました。守本の講演テーマは「日本発創薬力強化策:方程式駆動型・国産AIによる革新的ドラッグディスカバリー」。FRONTEOが自社開発した方程式駆動型AI「KIBIT(キビット)*」を中核とするAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory(DDAIF)」の展開を通じ、日本の創薬力をいかに強化するかを紹介しました。特別講演に続くディスカッションには、中外製薬 取締役上席執行役員 飯倉 仁氏、前内閣官房 政策参与 武田 俊彦氏、ならびに当社より守本と豊柴が登壇し、日本が世界で勝ち残るためのAI活用と創薬エコシステムについて議論しました。



パネル・ディスカッション

AI創薬支援事業 収益モデル

※事業収益

包括的共創モデル

※年間リテナーフィー

※プロジェクト・コンサルティングフィー

創薬戦略から導入判断、研究開発、育薬・LCMまでを横断的に
支援するDDAIFの新たな業務提携モデル

包括的業務提携契約



伴走型パートナー

研究開発基幹機能としてDDAIFを組み込み、
創薬戦略全般の意思決定を高度化

シーズ探索

導入判断

研究開発

LCM

包括的な業務提携契約をベースにした運用

個別プロジェクト単位ではなく、業務提携
のもとで創薬戦略支援を実施

全社横断的な活用

特定の研究テーマや疾患領域、研究部門に限定
せず、全社的な創薬戦略および意思決定を支援

ビジネスモデル 「自社研究・共同研究」/「共創プロジェクト」

※事業収益

ターゲット選定

化合物
探索・最適化

前臨床試験

臨床試験

承認

自社研究
共同研究



(契約一時金・マイルストーン・ロイヤルティ)
※導出

仮説生成<医薬品設計図>
ターゲット探索・適応症探索
In vitro, In vivo, HIT



製薬会社
(導入、後期開発
自社ブランドによる販売)

CRO(Wet検証)



仮説生成<医薬品設計図>
ターゲット探索・適応症探索

製薬会社
(新薬シーズへの投資、研究開発マネジメント
自社ブランドによる販売)

共創プロジェクト

※プロジェクト・コンサルティングフィー



仮説生成＜医薬品設計図＞

- ◆ ターゲット探索
- ◆ 適応症の探索・拡大
- ◆ 機序仮説の強化
- ◆ 検証ポイントの明確化
- ◆ 成功確率が高まる導出に向けた価値付与

FRONTEO
BDチームによる
導出活動支援

製薬企業へ導出

※上記活動の業務委託費

※上記活動の業務委託費

※契約一時金

※マイルストーン

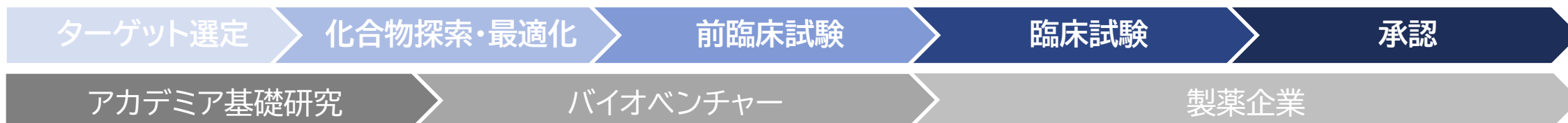
※ロイヤルティ

自社で調達し、バイオベンチャーへ出資

※事業収益

基礎研究から臨床研究を効率化し導出力を強化

DDAIFにより、通常10年以上を要するターゲット選定から化合物探索・最適化、前臨床試験までのプロセスを大幅に効率化し、短期間での導出が可能に



バイオベンチャー群

- ・低分子・中分子・高分子
- ・GPCR抗体・糖鎖・核酸
- ・CRISPR-Cas3
- ・ダイレクトコンバージョン技術



東京科学大学



オクラホマ大学



KIBIT AI Biology Lab



FRONTEO DDAIF



Real World Dataを活用
したトランスレーショナルリ
サーチ（予定）



製薬企業へ導出

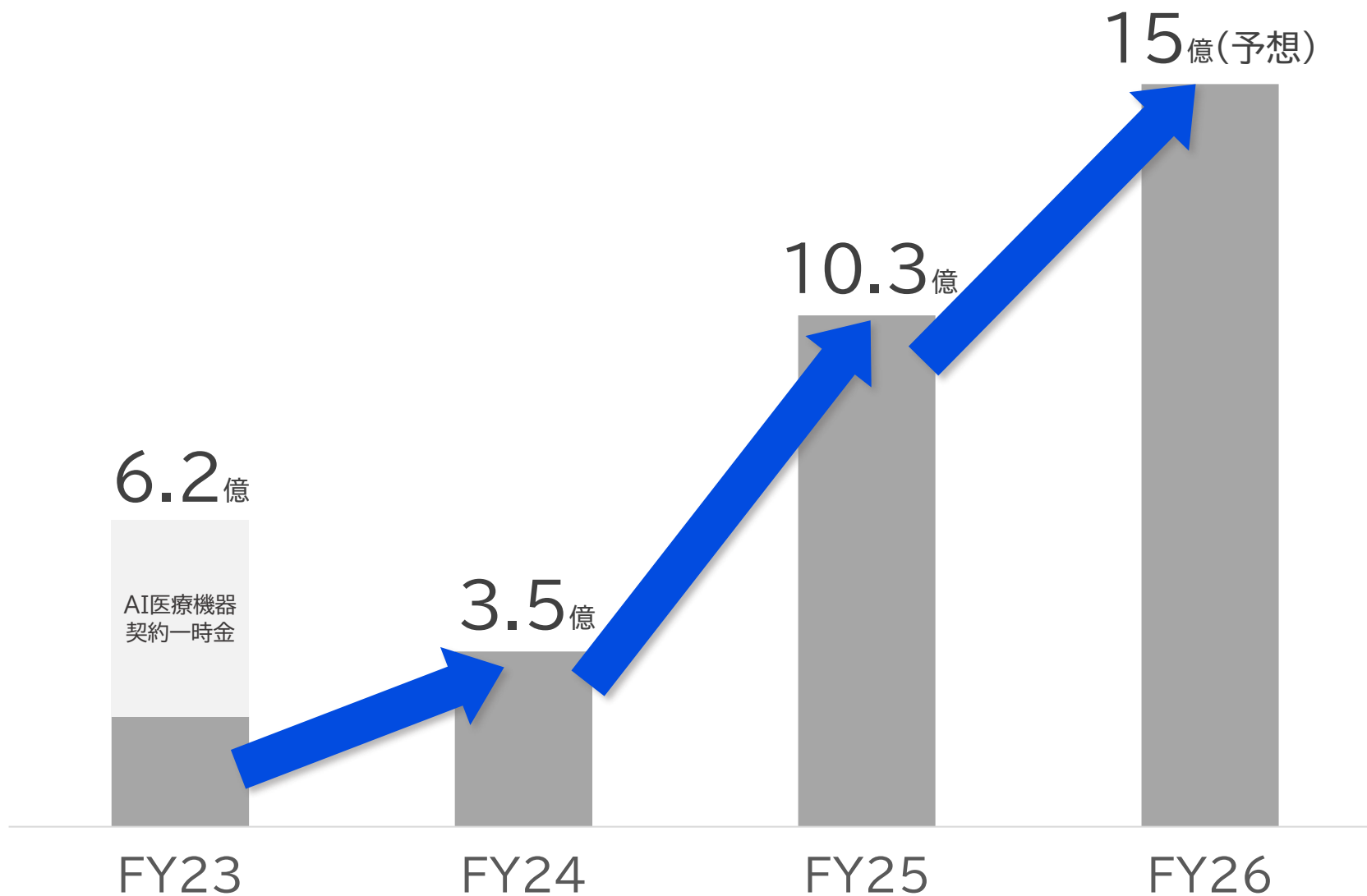
半導体業界バリューチェーン



- | 製薬企業への導出(ライセンスアウト)を目指すパイプラインが複数進行中
- | すい臓がん案件は、米国におけるがん研究の中核機関の一つであるオクラホマ大学で研究を推進。今後は動物実験により、さらなるエビデンスを蓄積
- | エヌビー健康研究所との案件は、最短で2026年度中の導出(ライセンスアウト)を視野に活動中

ライセンスアウトパイプライン

案件/領域	FRONTEO エコシステム			導出	
	ターゲット選定	リード探索・最適化	前臨床試験	臨床試験	承認
すい臓がん	✓	リード探索・最適化	—	—	—
① 自社研究。In vitroにてがん細胞の増殖抑制試験を行い、一定の効果を確認。米国オクラホマ大学武部研究室で追加試験を実施。今後In vivoへ移行					
線維症	✓	✓	前臨床試験	—	—
② エヌビー健康研究所との「DDAIF Innovation Bridge」共同開発案件GPCRを標的とした抗体医薬品					
オンコロジー	✓	✓	✓	臨床試験	—
③ 他社との共同プロジェクト					
低分子創薬シーズ	✓	✓	前臨床試験	—	—
④ 他社との共同プロジェクト。創薬シーズの創出および製薬企業への導出を見据えた段階					



2027年3月期第1四半期 決算サマリー

2027年3月期 第1四半期 経営指標 “下期偏重の計画で通期の見通しは予想通り”

- 連結売上高は、ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)の好調および2025年4月末に買収したアルネッツ(DX事業)の売上が、当期は期初より反映されたことにより、リスクマネジメント事業の製造業を含む大口顧客解約の影響による売上減少を上回り、前年同期比5.6%増で着地
- 連結営業利益は、ライフサイエンスAI事業の人的投資と下期偏重の計画通り営業損失。下期から収益が拡大する見通しであり、通期では計画通り黒字予定
- 引き続き、ライフサイエンスAI事業を中核事業と位置づけ、経営資源を戦略的に選択・集中することで、事業拡大を加速

連結業績		ライフサイエンスAI事業	
売上高	1,632百万円 前年同期比 +5.6%	売上高	営業利益
		139百万円 前年同期比 +29.2%	▲135百万円
営業利益	▲179百万円	リスクマネジメント事業	
		売上高	営業利益
		826百万円 前年同期比 ▲18.6%	▲44百万円
EBITDA	▲53百万円	DX事業	
		売上高	営業利益
		694百万円 前年同期比 +64.4%	24百万円

2027年3月期 第1四半期 連結業績および進捗 “ライフサイエンスAI、DXが好調”



- | ライフサイエンスAI事業：売上高は約30%成長。案件増加を見据えた研究人員拡充等の成長投資が増加したことにより営業損失
- | リスクマネジメント事業：ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野における、製造業を含む大口案件の解約により減収減益
- | DX事業：アルネットの売上が、当期は期初から反映されたことにより大幅増収。人員採用等の先行投資により減益

連結損益計算書

(百万円)	FY25				FY26	前年同期比		FY26	進捗率
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	増減	変化率	業績予想	
売上高	1,546	1,828	2,049	2,218	1,632	+85	+5.6%	7,600	21.5%
（ライフサイエンスAI事業）	107	166	241	518	139	+31	+29.2%	1,500	9.3%
（リスクマネジメント事業）	1,016	1,014	1,212	1,040	826	▲ 189	▲18.6%	3,500	23.6%
（DX事業）	422	654	606	678	694	+272	+64.4%	2,600	26.7%
（セグメント間取引消去）	0	▲ 6	▲ 10	▲ 18	▲ 28	-	-	-	-
売上原価	735	1,032	958	1,011	1,000	+265	+36.1%	-	-
売上総利益	811	796	1,091	1,207	631	▲ 179	▲22.1%	-	-
販売費及び一般管理費	899	715	754	797	810	▲ 88	▲9.9%	-	-
営業利益	▲ 82	74	336	410	▲ 179	▲ 96	-	300	-
（ライフサイエンスAI事業）	▲ 118	▲ 78	▲ 7	205	▲ 135	▲ 16	-	100	-
（リスクマネジメント事業）	0	143	299	212	▲ 44	▲ 44	-	95	-
（DX事業）	36	16	54	9	24	▲ 11	-	105	-
（セグメント間取引消去）	0	▲ 6	▲ 9	▲ 16	▲ 24	-	-	-	-
経常利益	▲ 95	70	347	352	▲ 138	▲ 42	-	250	-
当期純利益	▲ 161	88	295	321	▲ 105	+55	-	150	-

※ 2027年3月期よりセグメント変更しております。2026年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

2027年3月期 業績予想

- FY26は、ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)においてFY25からの成長をさらに加速させ、本格的な収益化フェーズへ移行するとともに、同事業を当社の中核事業として明確に位置づけ、中長期的な事業拡大を牽引する成長ドライバーとして確立を推進
- ライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)は、単発の共創プロジェクトによるアップフロント型収益モデルから、パイプライン導出による一時金、マイルストーン、ロイヤルティ等を軸としたアップサイド型収益モデルへの転換を推進。FY26は、導出可能性の高いパイプラインを着実に積み上げることで、新たな収益モデルへの移行を進め、非連続性成長を実現する基盤を構築
- リスクマネジメント事業は、一部のリカーリング案件解約ならびに縮小の影響により減収減益を見込む。FY26は、プロダクトおよびサービスポートフォリオの戦略的な選択と集中を進めることで、中長期的な競争力強化を推進
- 全事業部の計画は下期偏重であり、FY26第1四半期においては一時的な営業損失を見込む。下期にかけて収益が拡大する見通しであり、通期では黒字を計画

(百万円)	FY25	FY26 業績予想	増減率	ライフサイエンスAI事業		
売上高	7,643	7,600	▲0.6%	AI創薬分野	・ 共創プロジェクトの継続的な積み上げによるアップフロント型の安定収益に加え、将来的な創薬パイプライン導出によるアップサイド型の収入の獲得を見据えた「DDAIF Innovation Bridge」案件の拡充により収益を積み上げる計画	非連続 成長
（ライフサイエンスAI事業）	1,033	1,500	+45.2%			
（リスクマネジメント事業）	4,284	3,500	▲18.3%			
（DX事業）	2,325	2,600	+11.8%	AI医療機器分野	・ 「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器（SDS-881）」の認証獲得、産業横断アライアンスによる非医療機器プログラムの販売拡大	非連続 成長
営業利益	739	300	▲59.4%			
（ライフサイエンスAI事業）	▲ 16	100	-	リスクマネジメント事業		
（営業利益率）	-	6.7%		ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野 プロフェッショナル支援分野	・ 「KIBIT Eye」を基幹サービスと位置づけ、プロダクトの選択と集中「KIBIT」を軸に顧客の個別課題に対応した受託開発・SIを組み合わせたソリューション型サービスを推進	リニア 成長
（リスクマネジメント事業）	643	95	▲85.2%	経済安全保障分野	・ 官公庁および民間企業への訴求を継続 ・ コンサルティングサービスの拡充	リニア 成長
（営業利益率）	15.0%	2.7%				
（DX事業）	112	105	▲6.3%	リーガルテックAI分野	・ 顧客基盤の構築・強化を継続（FLLP・ウェビナー・Risk Initiative Community）	堅実な 事業運営
（営業利益率）	4.8%	4.0%				
経常利益	675	250	▲63.0%	DX事業		
当期純利益	544	150	▲72.4%	株式会社アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野	・ BIプロフェッショナル支援分野とアルネッツの事業シナジーの創出により、安定的かつ着実な事業拡大を目指す	リニア 成長
EBITDA	1,182	890	▲24.7%			

* 2027年3月期よりセグメント変更しております。2026年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。



お問い合わせ先 株式会社FRONTEO
email: ir_info@fronteo.com

代表取締役社長
守本正宏Xアカウント



将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。業界等における記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させて頂くものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。